



現今  
宗匠

撰句百家集

鳳井五明編撰  
一名口調の志る處

上

5  
4659  
1





五味七味七々々の調へ持家の撰り  
一 秀白哉のそれ一 此ふと  
点取共のそれ註の惣はあつた  
香葉あつた

味あつた

香葉は

あつた

十五卷 和文

附言

一 此編と後白初學社撰のあつた現今の  
判者方一百名の撰白をのそれとあつた  
只個のそれを撰りてそれを撰りてそれを撰りて  
行つた又撰りてそれを撰りてそれを撰りて  
あつた撰りてそれを撰りてそれを撰りて  
一 居所町名書寫のあつた撰りてそれを撰りて  
あつた撰りてそれを撰りてそれを撰りて  
あつた撰りてそれを撰りてそれを撰りて  
一 改定撰りてそれを撰りてそれを撰りて

かゝる人なれば、和心のうらやまも、月夜  
大照を、さしきよむ、櫻うら新との物  
侍るさうあり、世件も、おのれ、獨りの  
きこえ、まじり、あや、和言、口、ほ、く、た、れ、の  
あ、う、ほ、ま、さ、る、を、い、じ、且、結、古、家、の、り、せ  
ある、と、二、三、の、海、も、お、き、ん、手、あ、る、を、を  
取、成、あ、り、

擬き古歌

現今 宗匠 撰句 百家集 一名口調のまゝ庵

鳳井五明編撰

小築庵春湖

橋田氏 深川佐賀町丁目平番地

去五言月うらやま  
坊とあふさぬ花を  
の彩り、さしきよむ、  
下、結、情、さ、さ、る、と、  
う、ほ、ま、さ、る、と、  
結、成、あ、り、

袖  
昔葉や牡丹  
又二十一日  
去の葉は花を、ささる、と、  
あ、う、あ、り、の、時、の、あ、ら、い、や、ま、の、  
結、成、あ、り、夕、の、さ、さ、る、と、  
ほ、の、清、山、や、志、き、り、さ、さ、る、と、  
常、終、本、の、葉、葉、た、あ、ら、い、の、雨、  
樹、の、葉、子、を、散、ら、せ、り、や、軒、燈、籠、  
竹、子、の、風、彩、り、さ、さ、る、と、  
旗、の、山、や、花、葉、の、掃、き、り、  
去、る、葉、は、手、の、散、ら、せ、り、



暉雪菴鶯國

山内氏  
箱崎町四丁目番地

影居一古中  
意亦くまへ  
そくく白子  
言意事

軸

末と澄う  
板門のかよ  
娘小ね

美子集う元日古一福参子  
葉の意をきくも又此は厚くも寸  
意れきよ及まぬ意を舟の指  
交寄一月の二階のまり一寸  
陰小女中く掛木の葉蔓代答  
と一切や春中を修る毎婦人  
吾水子雪松園のやうんこを  
良小音や墨子も多し指後一  
習く羽小水意たり一具もあつ雀  
似味の下流焚交志吹串く丸

東杵庵月彦

鈴木氏  
淺草南元町  
松平神社

漆うらな  
新  
好様と云々  
白化あへ

軸

漆通ぬ  
指  
指

漆うらな  
羽子板や葉意くさくさ  
改く身了年の素や如と休  
引替や人を杖をく用とありぬ  
下うけを末と教意のやあつ料  
指も無の浮世はさすも茶売無  
藤やね森あへ一昭の徳之  
降着うさきも吉社にけり  
二新子板の明志つすく一河原う丸  
空板や一編りより月日如



白兔園知來

楠氏  
駿州静岡鷹匠町  
三丁目五十九番地

玄象のそとにきて  
わがうへに新し  
ふも好むくしきの  
白兔のしほを  
許すらん

袖

えそをぬれ  
春のうらみ  
柳のうれ

上は... 山  
峰... 山  
林... 山  
交... 山  
流... 山  
黒... 山  
春... 山  
空... 山  
五... 山

他... の...  
雨... の...  
足... の...  
白... の...

袖

あ... の...  
先... の...

普雪堂玄鷲

松本氏  
麻布細代町二番地

春... の...  
戸... の...  
穀... の...  
菽... の...  
柳... の...  
陰... の...



星の本一壽

高桑氏

西久保巴町十六番地

白の心あまの  
みしをさす  
すしをさす  
さしをさす

軸

松のまわり  
松のまわり

松のまわり

青梅や弟をさすはくそ年々  
号よきうそくすぬは 尾  
あうの修佛号とくか  
田の石よ思くとあき器うれ  
えの石や芒のつらね 振  
一すしと平山赤倒や日の初め  
杖豆の削り後いれ琴の上  
ふるまふ其うたをさす寸向へ中  
るよより山あし 振本の初ま

白園梅曆

原氏

赤坂田町五丁目  
十一番地

そまのま  
身一し  
ましをさす  
さしをさす

袖

まの山麓の

まの  
まの

あつむいの中より 鐘のつらなり  
光日のさすもさあまはけのうら  
おはさすをさす物よ友の  
月まのさすや新川の流れ  
湖のつらなりとくそま  
樹のつらなりとくそま  
炭路子とくそまをりうら  
下まのつらなりとくそま  
うらまのつらなりとくそま  
結納の身を出掛り

董庵愛海

福西氏 下谷西町四十六番地

句浦子と葉の  
おとほと時を  
ふらふと  
又物よきた  
おとほと句  
うとあり

軸

時保子  
おとほと  
うとあり

雪かきの一夜二夜も去る月  
竹保娘の心竹の巻く子の餅  
ゆきぬと云ぬ斗りやふ子月  
夕立の躍つて降や石の上  
雲を去るもあまの紅葉うら  
ははや州編白ふまうらや  
おとほと云ぬおとほと云ぬ  
おとほと云ぬおとほと云ぬ  
おとほと云ぬおとほと云ぬ

五窓樓千分

岡崎氏 京橋南丁堀二丁目 新道廿八番地

句保子と葉の  
おとほと時を  
ふらふと  
又物よきた  
おとほと句  
うとあり

軸

句保子と葉の  
おとほと時を  
ふらふと  
又物よきた  
おとほと句  
うとあり

おとほと云ぬおとほと云ぬ  
おとほと云ぬおとほと云ぬ  
おとほと云ぬおとほと云ぬ  
おとほと云ぬおとほと云ぬ  
おとほと云ぬおとほと云ぬ  
おとほと云ぬおとほと云ぬ  
おとほと云ぬおとほと云ぬ  
おとほと云ぬおとほと云ぬ  
おとほと云ぬおとほと云ぬ  
おとほと云ぬおとほと云ぬ





二窓菴蚕二

香川氏  
麻布市兵衛町壹丁目  
十二番地

白化原のそと  
掛立金 名所  
南中

袖

乙  
尾  
ぬれ

陽実や坂の井を以てあり  
給ふ本や名場の日のはり  
飛空のまのりや  
謝杖のすれ申  
衣の解や  
兄悔  
箱書や  
吸出  
おろり

蓮雨庵泰雅

中山氏  
西久保八幡町五番地

足如  
白  
何  
痛

袖

芽  
尾  
鬼

細  
巾  
自  
胸  
小  
各  
様  
時  
小

竹醉園雨麥

久保氏

淺草七軒町二番地

秋の初より中  
時依の橋台せ  
水一りし  
まきまき  
そよよ  
うき

軸

霧晴  
せり  
法月梅

蝶舞や霞結き暮る舟の人  
雨の籠く白ひやなきか  
雲とけりし川原  
故の屯軒の梓系白ひ  
庭冷や舟の星くし降つ  
東萩や峯ほらひく小舟自  
冬枯の梢さく多の雲  
山けりし秋器一破庭  
掛乞や掃きし世の境  
水仙や山を晴りし砂地物



無事庵鶯笠

塩坪氏

関口をせ菴

白紙優美を  
郡芳と  
心の切れし  
あき

軸

細中  
終  
梅

夏如子湯あそび一日  
在風やさし  
葉言入雀身  
黄もや種  
仮初子  
号や  
二の  
至る  
雨志  
一所

梅垣鶯一

美濃部氏 武八王子在

そくくろく白三折  
少しと云ふ高あ  
されは心の針  
しき一他をまを  
好りしれ

軸

十在納り毛の

まきく

まきの上

杉苗の糸の長く  
夕暮を人の心  
水宮の糸の尾の  
乳母の心  
山の井の心  
鴨牛の心  
綿妻の心  
空の心  
毛壇の心  
まの心

月洲庵知雲

増島氏 芝琴平町一番地

そくくろく白三折  
少しと云ふ高あ  
されは心の針  
しき一他をまを  
好りしれ

軸

まきの上

まきの上

そくくろく白三折  
少しと云ふ高あ  
されは心の針  
しき一他をまを  
好りしれ

語石菴精知

廣田氏

吳服町二十番地

白ゆきをうら  
てまぬく言ふ  
けりし輝白の  
夕虹の光  
時よ

軸

ふくしの手や  
まのう  
不二のぬ

唐菘の香やのまゝにけりしつゆぬ  
陽実や巨遠陸日寸湯立釜  
端をうら月を掃く冷し麦  
水も米ついでせうとてとて  
出くすまゝに二夜の使や初  
夕虹の光ゆきます芒可  
雪のぬゆきますまゝの  
けりしまゝにまゝに唐の  
まの今ぬるまゝに解め  
まを掃くすれを掃くまの

雪中菴梅年

服部氏

深川龜住町七番地

雪をまじり白  
あやかし白お  
言ふまじり  
まじり人情  
まじり人情  
ゆき

袖

掛櫃の

まじり  
まじり  
時雨のけ

跡りあふ出来し暮佳や梅の  
梅あけりまじりまじりまじり  
夕月やまじりまじりまじり  
まじりまじりまじりまじり  
梅まじりまじりまじりまじり  
水も月の人まじりまじり  
まじりまじりまじりまじり  
舞やまじりまじりまじり  
梅まじりまじりまじりまじり  
交垣のまじりまじりまじり



夜雪庵金羅

近藤氏  
湯島天神女坂下土番地

人情身一は白の  
髪大まきお又玉  
やふゆへへし時  
とや、使母旅の  
おし、ももをばあ  
將白鳥地はねたの  
白文のうすの白鳥

軸

くしのを  
只ちり  
孫めり

よの雪くくひさく  
出るぬを人の髪り  
庵あしりりおね  
志くくく水が  
山岨やをを利かぬ  
まのり身自走入水  
編書や実きりる  
おをををををを  
拵りりりりりりり  
ぬの籠の座りりり

夜鶴菴覺齋

徳野氏  
浅草諏訪町六番地

白濁をきこあり  
徳きこりされ  
言をを平手  
世に坊は多のり  
左の併時より

袖

海きぬ  
雲  
霧  
霧  
霧

鶴やのりり日御も  
一歩の海をよりぬ  
る身りり二日ぬ  
藪入や月おけを  
はさりりりりりり  
暮松樹の下りけ  
ゆりりりりりり  
洞窟の管をゆり  
そを雀岩脊りり  
三味せんのあは



珍齋其鸞

辻氏  
湯島切通三坂町  
根松院地内

白濁底を  
取去る所  
言ふは  
人懐く  
老を  
白を

袖

弄

笑鵲の

初音の

昔代や若くは 鐘のやつと  
為月や梅を名て 鐘の鐘  
音の初音や 鐘の鐘  
風を巻く 鐘の鐘  
鐘の音を 鐘の鐘  
夕立の雨を 鐘の鐘  
家より 鐘の鐘  
鳥羽玉や 鐘の鐘  
初音の 鐘の鐘  
結句の 鐘の鐘

白濁底を  
取去る所  
言ふは  
人懐く  
老を  
白を

袖

弄

笑鵲の

初音の

昔代や若くは 鐘のやつと  
為月や梅を名て 鐘の鐘  
音の初音や 鐘の鐘  
風を巻く 鐘の鐘  
鐘の音を 鐘の鐘  
夕立の雨を 鐘の鐘  
家より 鐘の鐘  
鳥羽玉や 鐘の鐘  
初音の 鐘の鐘  
結句の 鐘の鐘

對梅宇乙彦

萩原氏  
駿州静岡紺屋町  
電信局北隣





香楠居士雄

三森氏  
蠣壳町三丁目四番地

作意大や  
しつゝ安の秋  
秋のしつゝ  
しつゝ安の秋  
しつゝ安の秋

袖

昭々や

夏はよきの  
まはれや

空そや 垣まふきくをぬのり  
菊の極下石と知つて庭めたり  
一木とをわつれあき星のまきり  
足あきくくく支子 秋のくくく  
うもりの采とをきくくくく  
山とあきとぬきくくぬねや丁のき  
のなかのきくくくくくくくく  
勝菊の名をきくくくくくく  
くくくくくくくくくくくく  
風をきくくくくくくくくくく

人懐き一徳中  
か恩のわたり  
きくくくくくく  
きくくくくく

袖

夏はよきの  
まはれや

太白堂呉僊

松平氏  
四谷左門町百四番地

樹ありくくくくくくくくく  
脚くくくくくくくくく  
のねやよきの表のくくくく  
まのきくくくくくくくく  
まのきくくくくくくくく  
ねまきくくくくくくく  
七日目のくくくくくく  
人のきくくくくくく  
ねまきくくくくくく  
小袖のくくくくくく

白地すくすく  
しやうのそま  
人様うきま  
すくすくが  
方々わ

軸

善のうま  
思ひ  
ふ魚の  
さくら

月の本素水

小野氏  
呉服町茶商

田西戸板様  
川おどす  
ゆきうの  
ゆきうの  
月身り  
睡り  
萩の  
近い  
掛る  
苦城

秋萩庵木鷺

中谷氏  
内山町二丁目三番地

白地すくすく  
しやうのそま  
人様うきま  
すくすくが  
方々わ  
二十  
うの  
ま

冬  
若  
よ  
時  
白  
な  
樹  
あ  
降  
船

鳳井五明

和田氏  
京橋區南小田原町  
二丁目廿六番地

是を藤若の  
糺白あれと  
おのれう藤を  
これう藤を  
これう藤を  
加い

袖

志のそれぬ

都を姿や

時香

耳うゆきし物もさうさの沙汰  
敷入ふうかせぬせぬ物産うれ  
世より物のいづれも中元流れ  
すしきやまかか物の筆さす  
森あちぬく時きぬる果うぬ  
彦を地を流れしを東うぬ  
たれこれとらうぬ西瓜うぬ  
小布袋や袋うぬ一丁  
袋より袋のふすまの梳れ梳  
袖とせや難波の言の羽若姑ぬ

白体彩袖を  
暁をそそぐ  
古事  
あつしき白  
言ふ多う

袖

智海

羽の  
目にあう

映庵松頂

菅喜田氏  
信州松本深志町

態の孝の味をさうし水香  
月うきと我生りの梅うぬ  
深子も女も四家録の巻張り  
名月や輝を夢の古昔歌も  
新お産や区若ゆきと名歌  
梳の戸や遠あふの帯も香うぬ  
身を出し障や夢罵あ人の歌  
門ねや時々小路の仕振雪  
湯屋や豆袋のすしと撞あけ  
水足て丁の縁を枯れうぬ



他言子無聲  
先不無事  
方寸寸  
おつりさか  
字無事

其角堂水機

晋氏  
隅田川三圍社内

静あつて園高より海より夕  
友の夜や思ひ持てるも月  
露も秋の雨や山の水も  
常すも情もあつて時  
心もよきやうやうも  
めもあつて雨もあつて  
昔もあつて雨もあつて  
里もあつて雨もあつて  
静もあつて雨もあつて  
静もあつて雨もあつて

袖

水鏡  
我海とまん

友

佳峰園等哉

鳥越氏  
日本橋通三見番地

他言光孫  
流さあつて  
これと故  
揚子江の  
よりと  
軸  
一日  
よき  
よき  
よき  
親もあつて  
濃もあつて  
魚の河  
不二  
夕  
友  
入  
あ  
吹

百  
家  
集  
卷  
上  
一







